

# 平成26年度 第2回 熊野大花火大会交通円滑化協議会 ポ イ ン ト

## 1. 交通状況等

### 1) 来場者数

- ・H26:約17万人 (H25:約20万人)
- ・当日の午前中、三重県北部が降雨であったことや前日、近畿地方で100mmを超える大雨であったことを鑑みても、非常に多くの観客が来場。

### 2) 交通量(自動車)

- ・国道42号 新宮→熊野(上り)の交通量(0時~22時))は、昨年の約92%。  
(H26:8, 200台/22時間、H25:8, 900台/22時間)
- ・国道42号 尾鷲→熊野(下り)の交通量(0時~22時))は、昨年の約91%。  
(H26:7, 300台/22時間、H25:8, 000台/22時間)

### 3) 渋滞長

- ・国道42号 尾鷲→熊野(下り)の渋滞は花火大会会場を先頭に最大約8km(13~14時)に発生したが、昨年に比較し大幅に減少。(H25:最大約26km)

### 4) バスの状況

- ・昨年はバスが花火開始時に間に合わず引き返す事態が発生。
- ・今年は駐車場予約のあった137台全てが花火大会開始前に到着。  
(熊野尾鷲道路は規制時間中に103台のバスが利用)
- ・多くのバスは早めに駐車場入り。

## 2. 交通円滑化の観点から今年度の評価

- 1) 会場周辺での交通渋滞緩和・安全性向上のために、様々な交通規制や駐車場への誘導・案内が効果的に行われた。  
(例:熊野市駅前への現場指揮官車の配置、警察官のハンドマイクによる歩行者誘導)
- 2) 熊野尾鷲道路の通行規制により、バスの到着時間が早くなり、混乱を生じなかった。
- 3) 熊野尾鷲道路の通行規制を早めに広報したことで、バス以外の車両も早めの来場が促され、来場時間帯の分散が図られた。

### 3. 更なる交通円滑化に向けた課題

#### <午 前>

- 1) 国道42号で、露天商の荷下ろしによる駐停車により、交通障害が発生。
- 2) 井戸町交差点で右折交通が集中し、右折レーンをはみ出して滞留することで、直進交通を障害。
- 3) 熊野警察署前交差点・イオン等への出入りを起点とした交差道路(県道34号)の先詰まりの影響により、国道42号からの右左折が出来ず、上り・下りとも渋滞が発生。

#### <午 後>

- 1) 井戸町交差点の右折レーン閉鎖後、バスや通行許可証を持った車両が直進レーンから右折するため、後続の直進交通を障害。

### 4. 来年度に向けた検討内容

- 1) 来場者の交通分散を目的に、熊野尾鷲道路の交通規制の継続実施を基本に、規制実施時間帯の詳細な検討。
- 2) バスの定時性も確保でき、アンケート結果からも「来年度以降は自家用車からツアーバスに切り替える可能性がある」と回答した方が約14%いたことから、ツアーバス利用促進に繋がる方策を検討。
- 3) 早めの”意志決定”と早めの”広報”。
- 4) 露天商の荷下ろしによる路上駐車対策について、国道42号の交通を障害しないよう、駐車場所・時間の指定などの徹底。
- 5) 井戸町の交通集中について、市内道路の交通運用も含めた幅広い検討。

#### 交通需要のコントロール(交通の分散・早めの来場)

- ・早めの来場者へのインセンティブを付与。
- ・滞留時間をより快適に過ごして頂くための、場所・イベント等の充実。